

第46回死の臨床研究会年次大会 プログラム (予定)

- 講演 伊勢神宮の智慧
河合真如氏 (伊勢神宮元禰宜、第62回式年遷宮神宮司庁広報室長)
- 講演 地域のつながりを育むコミュニケーション (仮)
浜渦辰二氏 (元大阪大学、上智大学グリーフケア研究所教授)
- 講演 死の臨床における費用 (仮)
川崎由華氏 (がんライフアドバイザー®)
- 講演 親の死と向き合う子どものグリーフケアの取り組みについて (仮)
井上実穂氏 (四国がんセンター 臨床心理士)
- 講演 孤独死の現場からのメッセージ (仮)
高江洲 敦氏
- 講演 貧困・社会的困窮者への支援～新型コロナ禍における最前線～ (仮)
藤田孝典氏 (NPO 法人ほっとプラス理事、反貧困ネットワーク埼玉代表)
- 講演 社会的処方～孤立という病を地域のつながりで治す方法 (仮)
西 智弘氏 (川崎市立井田病院緩和ケア内科/一般社団法人プラスケア理事)
- 講演 【災害関連企画】
あいまいな喪失と家族のレジリエンス～災害支援の新しいアプローチ (仮)
石井千賀子氏
- 講演 写真が語る、いのちのバトンリレー～悲しくもあたたかな看取りの場から
國森康弘氏
- 講演 ミッシングリンク～失われた光の輪 (魂の記憶) を取り戻す～
高江洲薫氏
- 講演 がん先進医療とゲノム診療～先進のがん医療と意思決定支援の現場～
奥川喜永氏 (三重大学病院ゲノム診療部、緩和医療専門医)
- 講演 ACP2022 (仮)
木澤義之氏 (神戸大学大学院医学系研究科緩和医療学講座)
- 講演 ケアの本質 (仮)
田村恵子氏 (京都大学大学院医学系研究科緩和ケア看護学分野)
- 講演 支える人がバーンアウトしないために
栗原幸江氏 (がん・感染症センター都立駒込病院 心理療法士/公認心理師)

■ シンポジウム 死を迎える苦しみをケアする

【要旨】 死がもたらすこと、そこに関わるひとのあり方やケアの重要性を考え、予期悲嘆への対応・臨終のケア・グリーフケアの具体的な実践を考える。

■ シンポジウム 尊厳ある看取りのあり方～コロナ前後で変わったもの、変わらなかったもの～

【要旨】 コロナ禍で看取りのありかたがどのように変わったのかを考える。

■シンポジウム 地域で支える人生の最終段階～孤立化を見据えた死の臨床～

【要旨】2025年「多死社会」を前に、今すでに長い人生の最終段階の経過の中で、当事者、家族、介護者、医療者の「孤立化」問題が生じている。自分たちのこの先を見据えていく上で、地域でどのようにお互いを支えるのかを考える。

■シンポジウム 食べるをつなぐ

【要旨】食べることは、いのちをつないでいく根幹である。さまざまな病状の進行の中での工夫や対応を多職種で検討する。

◆パネルディスカッション

身寄りのない人や家族関係が複雑な人の意思決定支援を考える（仮）

【要旨】身寄りのない人や家族関係が複雑な人の意思決定支援を考える

◆パネルディスカッション

さまざまな医療の現場でのアドバンス・ケア・プランニング（仮）

【要旨】救急・集中治療の現場、緩和ケアの現場、地域連携の現場などから、ACPをめぐる現段階の取り組みと問題点・悩み、また今後の進め方のアイデア・展望などを紹介してもらおう。貴重なインスピレーションを参加者それぞれに得る場としたい。

★市民公開講座

もしもの話をもっと身近に一元気な時に始める人生会議ー

【要旨】一人の人間として「人生の最終段階を自分のこととして考える」ことは、様々な困難をとまなう。死の臨床研究会年次大会の開催という特別な機会を「地域住民の方が『人生会議』の大切さや重要性を知る機会」とし、市民を対象に、大切な人の思いをキャッチしたり、つなぐことが大切であることに気づけるような公開講座としたい。

★ワークショップ 医療者のセルフケア

【要旨】医療者のセルフケアをテーマにして、癒しとくつろぎを得るワークショップ

★国際交流広場

◇一般演題（ポスター発表）250題

◇事例検討（60分枠8題、90分枠4題）